

第3回富山県環境審議会 生物多様性小委員会 議事概要

1 日 時 令和5年2月28日（火）午後2時～3時30分

2 場 所 富山県民会館701号室

3 出席者

委員等：和田委員長、富永委員、有山専門員、中田専門員、柳原専門員、岡田調査員、間宮調査員、道井調査員、吉田調査員（欠席：遠藤委員、石黒専門員、小川調査員）

県側：林生活環境文化部次長、藤本自然保護課長、牧野自然保護課主幹・課長補佐・自然環境係長、利田自然保護課副主幹・野生生物係長 ほか

4 議事及び主な意見

（1）富山県生物多様性保全推進プランの改定について

（委員等）プランに記載している種名等について、文献等を記載していないが、引用先の論文や報告書を整理されておいたほうがよいのではないかと。

（事務局）専門家の方に相談し、記載している。文献等については、整理していきたい。

（委員等）高山蝶のタカネヒカゲについて、ライチョウやイヌワシと同様に国内希少野生動植物種であり、いずれライチョウに加えて高山を象徴する種になると思う。そうした意味でも、高山域の生態系にタカネヒカゲを入れることは、意義のあることかと思う。

（委員等）イメージマップの高山域にも、タカネヒカゲを描き入れたらよいのではないかと。

（委員等）奥山に記載している林床植物について、奥山に限らず里山等でも林床というところがあるので、他の記載に変えた方がよい。

（事務局）ご意見を踏まえ、修正したい。

（委員等）今回改定したプランに30by30目標を取り上げており、30by30も動きだした後に地域戦略を改定する自治体として先進的なものになるのではないかと。関係者に情報発信をされていけばよい。

（事務局）積極的にアピールしていきたい。

(委員等) プラン改定案のサブタイトルにもなっているとおり、富山県の高低差が生み出す生物多様性といった特徴を県民の方に知ってもらうということで、認知度を高めるとして目標にも立てているが、県内の既存の博物館等施設を活用してネットワーク化をすることで、高低差4,000メートルの多様性を体感できるような取組みを富山県のほうでやっていただきたい。

(事務局) いろいろな博物館や施設等とネットワーク化し、連携しながら生物多様性を広めていきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

富山県生物多様性保全推進プランの改定については、改定案を修正し、委員に確認いただいた上で環境審議会に答申することとされた。